

この案については、市民に公開されておられません。

H26、27年都市計画マスタープランのアンケート(*2)の自由記述では、小川駅西口周辺の整備を望む声が複数ありますが、市民の望む整備のイメージは一律ではありません。

*1)小川駅前周辺地区まちづくりビジョン <http://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/036/036466.html>

*2) H26年度及び、27年度小平市都市計画マスタープラン改定市民アンケート調査報告書参照。H26年度のP78以降、H27年度には、P96にアンケートに回答した市民の自由記述があり、小川駅周辺、小平駅周辺の整備の要望があります。H26年度のP81には、道路に関しての要望があります。<http://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/043/043999.html>

■小川駅西口再開発の課題

・市民からの小川駅西口再開発の要望はある。H4年に再開発協議会が設立されて以来、25年が経過して未だに事業が進んでいません。

・再開発準備組合による検討には、市の予算（税金）も使われています。市議会・委員会での質疑だけが情報公開の場になっており、市民への情報公開は十分とはいえません。

・計画が明らかになるときは、ひとつの案で決まっており、市民の意見が反映できない事態になることが危惧されます。一例をあげると、現在、西口出口の再開発予定エリア内に6箇所の駐輪場が運営されていますが、ニーズがある駐輪場の配置が検討されていません。

■質問1

Q) 小川駅西口再開発については、どのように取り組みますか？その理由とともにご回答下さい。

A1) これまで通り小川駅周辺地区まちづくりビジョンに基づいて再開発準備組合の高層ビルの計画を組合施工で開発を進める。

A2) 再開発準備組合の案を精査して無理がある場合は、駅前広場と都市計画道路（小平3・4・12号線）のみを開発をすることも検討する。

A3) 再開発準備組合の案を白紙にして、地権者、近隣住民、広く市民へのアンケートをし、要望を整理して進め方から再検討する。

A4) その他（自由記述 300文字以内）

回答を選んだ理由）（自由記述 300文字以内）

■質問2 小川駅西口再開発を進めていく上で、市民への情報公開や、意見を反映させる機会をどのように持ちますか？（自由記述 300文字以内）

2) 小平駅北口地区市街地再開発について

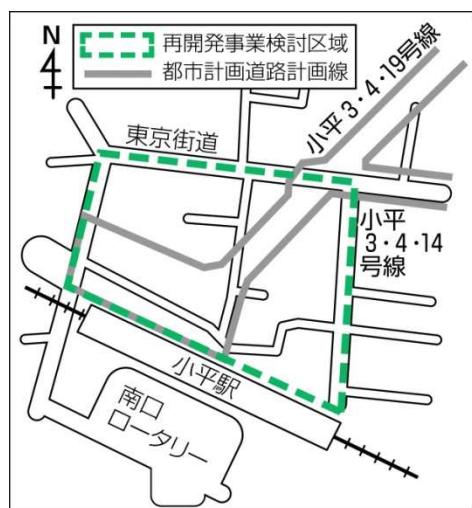
■概要

小平駅北口再開発については、平成 22 年に小平駅北口街づくり協議会が設立されて、H27 年には地権者による小平駅北口地区再開発準備組合が設立され再開発の検討が進んでいます。(再開発準備組合の計画案が、準備組合のホームページで公開(*3)されております。) 54 年前の昭和 38 (1963) 年に駅前広場と、乗り入れ道路である都市計画道路 (小平 3・4・19) が計画決定されました。現在の再開発準備組合の検討案は約 4 倍の面積に再開発エリアを拡げて、組合施行での事業化を目指しています(*5 の P71)。再開発準備組合の計画では、高層ビルが東西に 2 棟建てられる計画になっています。

現在見直しが行われている都市計画マスタープランの見直し案 (*5) には、再開発準備組合の案の事業化を促進すると記載があり、再開発準備組合の案が、市のまちづくりの方針である都市計画マスタープランの案になる見込みです。しかし、H29 年 2 月 3 日に行われた都市計画マスタープラン見直し検討委員会で公開されたパブリックコメントによれば、小平駅北口再開発について 9 件の意見が寄せられていますが、いずれも再開発の進め方や、高層ビル計画についての否定的な意見です。小川駅西口の再開発の検討と比較しても、地権者、周辺の住民など市民との協議、合意のステップが十分とは言えません。

小川駅西口と同様に、市の予算(税金)が補助金として使われることからその一部の床を市が買い取り、公共施設として市民に提供することが予想されます。一方、2017 年 1 月に小平市から発表された公共施設マネジメント推進計画 (2017-2026) (素案) (*4)によれば、この 10 年間で、公共施設の床面積は増減なし(増やす分減らす)、という方針を打ち出しておりますので、高層ビルが出来るとした場合の公共施設の扱いについても注目されます。

H22 年の小平駅北口地区まちづくり現況調査報告書 (*6) や、H26 の小平 3・4・19 号線意向調査報告書 (*7)、H26、27 年都市計画マスタープランのアンケートの自由記述(*2)などからは、小平駅北口の整備を望む声が複数ありますが、市民の望む整備のイメージは一樣ではありません。



*3) <http://kodairakita-saikaihatsu.com/development/> 小平駅北口再開発準備組合のホームページより引用。

*4) 小平市公共施設マネジメント推進計画 (素案) <http://www.city.kodaira.tokyo.jp/pubcome/053/053457.html>
の P21 の図表 2-2-4

*5) 小平市都市計画マスタープラン改定 (素案) <http://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/053/053225.html>

*6) 小平駅北口地区まちづくり現況調査報告書 <http://www.city.kodaira.tokyo.jp/oshirase/015/015079.html>

の地区の意向調査 P24 以降によれば、駐車、駐輪場、歩行者スペースや、バス・タクシーの乗り入れスペースなどに対する改善を求

める声が多い。P48以降の街づくりにおいて活用したい資源、改善したい場所からの様々な要望があることがわかる。

*7) 小平3・4・19号線意向調査報告書 <http://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/038/038418.html>

■課題

・再開発計画の初期段階で小平市は、地権者や周辺住民へのアンケートによる要望整理を行いました。しかし、その後、再開発のコンセプト・方向性の検討が小平駅北口街づくり協議会および、再開発準備組合まかせになり、再開発エリアの地権者や周辺の住民との合意形成がなされていないまま計画が進められています。

■質問3

Q1) 小平駅北口再開発の進め方として、再開発のコンセプト・方向性について、地権者や周辺の住民など市民の意見を反映させながら進めていると考えますか？

A1)はい

「はい」と回答した理由（自由記述 300文字以内）

A2)いいえ

「いいえ」と答えた方のみ次の質問にご回答下さい。

Q2)小平駅北口再開発について、小平市として地権者や周辺の住民など市民の意見を反映させる努力をどのように行いますか？その理由とともにご回答下さい。

A1)小平駅北口再開発準備組合の案に対して、小平市として、地権者や周辺の住民など市民の意見を吸い上げて、計画に反映させる努力を行いながら再開発準備組合の案の事業化の促進をはかる。

A2)小平市が再開発に関して、現計画を白紙に戻して地権者、周辺住民など、幅広く市民の意見を集める。小平市・地権者及び希望する市民で、有意の差がある複数の再開発案を検討して、それぞれのコスト、開発期間など、メリット・デメリットを比較して市民へ提示して意見を求めて方向性を決めていく。その上で最適な手法で再開発を進める。

A3) その他（自由記述 300文字以内）

回答した理由（自由記述 300文字以内）

3) 未整備の都市計画道路について

小平市の24本の都市計画道路は、すべて昭和38(1963)年に計画決定されました。完成したものは8路線で、残り16路線は、未着手または整備中です(*8)。H28年3月に公表された東京都における都市計画道路の整備方針(第四次事業化計画)において、小平市でこの10年間で優先的に整備される路線として、以下の道路が選定され、小平市のまちづくりの方針である見直し中の都市計画マスタープランでも同様に優先整備路線となりました。小平3・3・3号線の新小金井街道より東側(都施行)、小川西町4丁目の小平3・4・10号線(市施行)、小平駅北口の小平3・4・19号線(市施行)、小川駅西口の小平3・4・12号線(市施行)の4路線。

小平市は、都市計画道路の整備の効果として、渋滞の解消をはじめ、歩車道分離による歩行者や自転車利用者の快適性の向上、沿道緑化による緑の創出、延焼遮断機能としての防災性の向上、沿道利用の促進によるにぎわい創出などをあげています(*5のP19)。

しかし、H26、27年の都市計画マスタープランのアンケート(*2)の自由記述の道路についての記述を見ると、都市計画道路を新設の要望は少なく、既存の生活道路や歩道の整備などが多いことがわかります。

また、都市計画道路が玉川上水など自然環境と交差することによって損なわれる環境への懸念の声も同アンケートにはあります。国の史跡玉川上水は、2016年には日本ユネスコ協会から、「プロジェクト未来遺産」に選ばれ、未整備の都市計画道路については慎重な検討が求められます。優先整備路線となった小平3・3・3号線は、多摩湖自転車道と斜めに200m以上交差し、鈴天通り商店街、光が丘商店街の大部分、および閑静な住宅街を通過する計画になっており自然環境、住環境への影響が大きい計画です。



市報こだいら 2016年5月5日都市計画道路特集号(*9)に、環境との交差点について注記を追加した。

①②小平3・3・3号線、③小平3・4・10号線、④小平3・4・19号線、⑤小平3・4・12号線が2017年から、2026年までに優先的に整備される予定となった都市計画道路。

*8)小平市都市開発部ホームページより <http://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/043/043971.html>

*9)市報こだいら 2016/5/5 都市計画道路特集号 <https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/021/021466.html>

■課題

・小平市にある都市計画道路は計画決定から 54 年が経過しています。整備率 42.6% (H28.3.31 現在) で約 26km が未整備ですが、未整備の都市計画道路の多くが、閑静な住宅街、小平に残された貴重な農地、玉川上水、小平グリーンロードなどの自然環境と交差するなど、整備することにより失うものも大きいです。

・人口減少・超高齢化社会、税収減収に向かおうとしている現在も、都市計画道路に多額な税金がつかわれています。

・未整備の都市計画道路の整備方針については、東京都と 26 市町村との行政だけの話合いの中で決められており、計画の見直しに市民参加の機会が実質的にないという現状があります。

■質問 5

Q1)この 10 年間で優先整備に選ばれなかった長期未整備の都市計画道路について、小平市としては今後どのように扱いますか？その理由とともにご回答下さい。

A1) 都市計画道路や幹線道路の整備は、渋滞の解消をはじめ、歩車道分離による歩行者や自転車利用者の快適性の向上、沿道緑化による緑の創出、延焼遮断機能としての防災性の向上、沿道利用の促進によるにぎわい創出など多くの効果をもたらします。本市の都市計画道路の整備率は 42.6%にとどまっており整備推進は重要な課題となっております。今後も東京都、近隣市と協議しながら整備を推進していきます。

A2) 都市計画道路は計画決定から 54 年が経過しており、人口減少・高齢化が加速している現在において、すべての計画の整備が必要とは考えませんが、必要な道路は整備すべきです。東京都・近隣市とも協議しながら市民の意向にも耳を傾けて、必要な路線を精査して東京都・近隣市と協議しながら整備推進していきます。

A3) 都市計画道路は計画決定から 50 年以上が経過しており、人口減少・高齢化が加速している現在において、多くの計画は中止・見直しされるべきです。市民への意向調査を行い不要、見直しが必要と判断される計画について、東京都・近隣市と協議して計画の中止・見直しを求めています。

A4)その他 (自由記述 300 文字以内)

回答した理由 (自由記述 300 文字以内)

■質問 6

Q)都市計画道路に関して、都の方針と市民の意向が相違する場合、どのように対処しますか？(自由記述 300 文字以内)

4) 農地保全について

市内に点在する農地は、新鮮な農産物を供給するだけでなく、貴重な緑も提供しています。市内の緑地の約3分の1が農地です(*10)。その農地は年々減少する一方です。平成16年から25年の10年間で約20%の農地が減少しています(*11)。

市街化区域内農地については生産緑地法という制度で保全が図られていますが、緑の保全の目的で市による買い取りが行われた例はなく、十分には役立っていません。

最初の生産緑地指定を受けた農地が30年経過する平成34年以降、一斉に買い取りの申出(*12)が行われ、農地が一挙に減少する危惧があります。

H27年に施行された都市農業振興基本法によって、国はこれまで都市農地を宅地化する前提から、保全・活性化する方向に180度方針転換しました。H28には小平市でも農業振興計画検討委員会が設置されて、都市農業の振興の検討されており今後、具体的な農地の保全が期待されます。

*10) 小平市みどりの基本計画 <http://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/015/015310.html>

*11) 小平市統計資料(平成27年版) <http://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/050/050346.html>

*12) 生産緑地法第11条 <http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S49/S49HO068.html>

生産緑地指定後30年を経過後、又は従事者の死亡や身体障害等により農業等の継続が困難になった場合には、市町村長に時価での買い取りを申し出ることができる。

■課題

- ・小平市の農地が毎年減少していますが、農地を保全するため具体的な施策が功を奏しているとは言えません。

■質問7

市内の農地減少を食い止める、もしくは回復させるためにはどのような施策を実施しますか。(自由記述300文字以内)

以上宜しくお願いします。